

正徳の政治

☆6代将軍・^{いえのぶ}徳川家宣、7代将軍・^{いえつぐ}徳川家継(ともに短命)のときに、

*側用人1 ^{まなべあきふさ}間部詮房
*朱子学者2 ^{あらいはくせき}新井白石

によって行われた文治政治のこと。

京学の系統に属する朱子学者で^{きのしたじゆんあん}木下順庵の門人 [図表P. 188系統図]。歴史研究者として、また蘭学の先駆者としても著名。

1. 経済政策

①貨幣再改鑄 = 3 ^{しょうとく}正徳 金銀の鑄造 [図表P. 175⑤⑥]

→ 4 物価高 は抑制されたが、貨幣混在、景気縮小による混乱が生じたという。

②貿易額の縮小 [図表P. 175⑥⑦]

* 5 1715 年 6 ^{かいほくごししんれい}海舶互市新例 (長崎新令、正徳新令) の発令

～年間貿易額を清船年間 7 30 隻、銀高 8 6000 貫、オランダ船年間 9 2 隻、

銀高 10 3000 貫に限る。 [P. 202③]

「新井白石の考え」

貿易品を人間の体でいえば、農産物は 皮 や 毛、金銀は 骨 にあたる。
救命薬や書物など他にかけがえのないもの以外は金銀と交換するべきではない。

※この発想は次期政権担当者である8代将軍・^{とくがよむね}徳川吉宗に受け継がれ、国内生産物の増産という形で具体化した。

③朝鮮からの使者 (= 「^{ちようせんつうしんし}朝鮮通信使」) に対する待遇簡素化など [図表P. 175⑥⑦]

*従来の待遇が華美であったとして、接待費を40%削減

*朝鮮からの将軍に対する呼称を「日本国大君殿下」から「日本国王」に変更させる。 [P. 202②]

(ただし、次期将軍徳川吉宗によってもとに戻された。)

◇ 正徳の政治といえば新井白石の名前ばかりが出てくるのですが、彼の上司である側用人・^{まなべあきふさ}間部詮房も忘れてはいけません。新井白石は、信念が強く妥協を許さず、激しい気性の持ち主で、幕閣たちとの政策的対立も多かったようです。旗本クラスで身分的には高くない白石は上層部とのあつれきも多かったと思われませんが、それでも彼が力を発揮できたのは、性質よく誠実・温和な君子と評された間部詮房の庇護があつてのことと思われます。部下の活躍も上司次第というところもありますからね。

◇ 秩序を重んじ、幕府の権威を重視する新井白石にとって、荻原重秀の行った貨幣改鑄は気に入らなかったようです。荻原重秀の罷免を度々將軍徳川家宣に働きかけてついにそれを実現させると、小判の品位を慶長小判と同等に引き上げる正徳小判の鑄造を実現しました(この結果はプリントおよび教科書 P. 202L. 8～に記載)。新井白石が書き残した荻原重秀批判の書が多く残る一方、荻原重秀の主張を記した文書が残っていないため、かつては日本史の授業においても荻原重秀は悪人扱いでした。現在ではこの評価はあらためられ、経済政策的には新井白石よりも経済問題の本質を捉えていた財政担当者として荻原重秀を評価することが多くなっています。なお、「荻」は^{おぎ}けものへんです。のぎへんの「萩」と間違えないよう気をつけましょう。

◇ プリントにも書いてますが、新井白石の貿易政策については後の世に与えた影響を評価されることもあります。この政策が、次の八代將軍徳川吉宗に貿易制限と国内産業の奨励を発想させるヒントになったというものです。プリントに載せた新井白石のたとえ(「日本は自らの骨を差し出して中国の髪の毛と交換している」=再生しない金銀と、いくらでも増やすことができる生糸との交換をさす)は、科学的合理的思考を持っていたとされる徳川吉宗に刺激を与えたものと思われます。この結果、吉宗政権のもとで日本の産業構造は激変するのですが、皆さんは中学校で習った内容を思い出せるでしょうか。高校では皆さんの手元にあるプリント No. 10で取り上げます。

ちなみにプリントの「新井白石の考え」の空欄に入る「皮」、「毛」は史料中には「肉」や「血」という例えも載ってますから、それでももろんかまいません。